

# コスモ石油株式会社

## ～コスモエネルギーグループ概要～

---

2018年2月20日  
第1回\_石油産業競争力研究会資料

# コスモエネルギーグループ概要

セグメント	石油開発事業	石油精製販売事業	石油化学事業	その他事業 (再生可能エネルギー)	連結 ※2
売上高 ※1	560億円	2兆3,340億円	4,430億円	540億円	2兆5,580億円
経常利益 ※1	180億円	640億円	300億円	50億円	1,200億円
経常利益 ※1 (在庫影響除き)	180億円	440億円	300億円	50億円	1,000億円

主な資産	■ パートナーシップ 約50年にわたる産油国との 強固な信頼関係	■ 原油処理能力 ※5, ※6 40万バレル/日 (国内シェア 11.4%)	■ オレフィン製品 生産能力 ※5 エチレン 129万t/年 (国内シェア18%)	■ 風力発電能力 ※5 21.1万kW (国内第3位/国内シェア76%)	■ 企業認知率 98.5%  ※調査対象は、自家用車で最近 1ヶ月以内にガソリンスタンドを利用 した18～64歳の男女1,239名 (2017年1月16日時点)
	■ オペレーターシップ(自社操業) 中東地域において日系企業の オペレーター会社としては最大規模	■ 国内販売量 ※3 内需燃料油 20,821千KL	■ アロマ製品 生産能力 ※5 パラキシレン 118万t/年 ヘンゼン 94万t/年 ミックスキシレン 62万t/年	■ 太陽光発電能力 ※5 2.4万kW	
	■ 原油生産量 ※3 約4万バレル/日 (原油処理能力比約10%)	■ 国内SS数 ※5 2,957ヶ所			
	■ 原油埋蔵量(確認・推定) ※4 154.0百万バレル (約23年分の供給量相当)	■ コスモ・ザ・カード会員数 ※5 444万枚	■ 個人向けカーリース事業 ※5 累計契約台数 37,077台		

主な事業会社・関連会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスモエネルギー開発</li> <li>・アビダビ石油 (UAE)</li> <li>・カタール石油開発 (カタール)</li> <li>・合同石油開発 (UAE/カタール)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスモ石油</li> <li>・コスモ石油ルブリカンツ</li> <li>・京葉精製共同事業 (千葉JV)</li> <li>・ジグリス (LPG)</li> <li>・コスモ石油マーケティング</li> <li>・コスモ石油販売</li> <li>・総合エネルギー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸善石油化学 (千葉/四日市)</li> <li>・コスモ松山石油</li> <li>・CMアロマ (千葉)</li> <li>・Hyundai Cosmo Petrochemical (韓国)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコ・パワー(風力発電)</li> <li>・コスモエンジニアリング</li> <li>・コスモトレード・アンド・サービス</li> <li>・neo ALA</li> </ul>	—
-------------	--	--	--	--	---

(※1) 2017年度計画、(※2) 連結処理を含む、(※3) 2016年度実績、(※4) 2016年12月31日時点、(※5) 2017年3月31日時点

(※6) 事業提携に基づく昭和シェル石油からの3.7万BD相当の製品・半製品の供給を含む

## 【石油事業】 アライアンス等による製油所の競争力強化

- ✓ 2016年度 千葉製油所の2年ロングラン開始 ⇒ 約70億円の収益改善
- ✓ 2017年度 昭和四日市石油と事業提携 ⇒ 当社シナジー 10億円/年
- ✓ 2018年度 当社およびJXTGの千葉製油所を統合 ⇒ 両社シナジー100億円/年

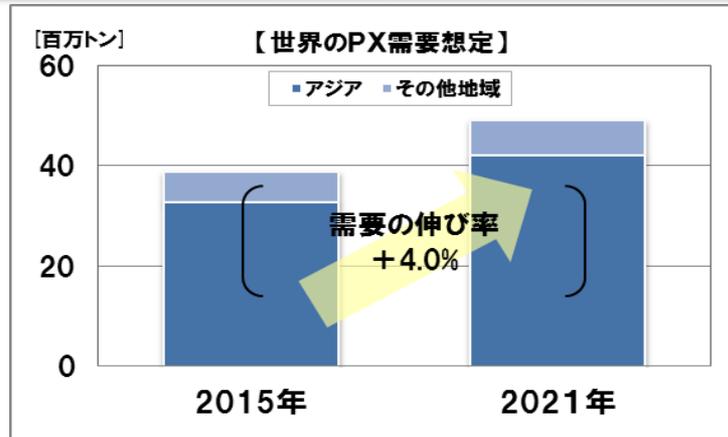
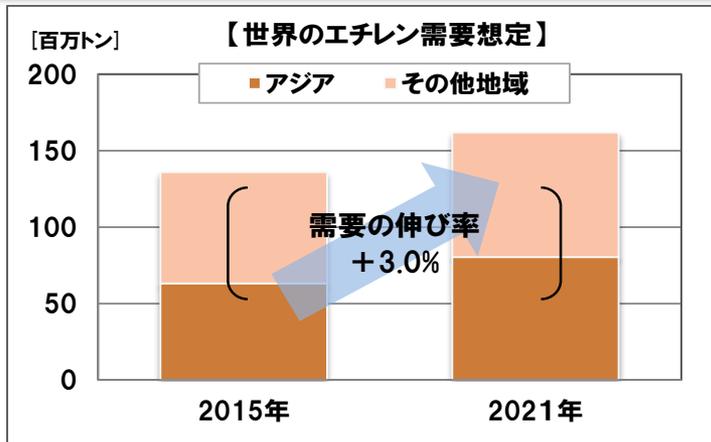
### 【当社原油処理能力：40.0万BD】

- ※ 事業提携に基づく昭和シェル石油からの3.7万BD相当の製品、半製品の供給を含む
- ※ 2017年4月1日時点



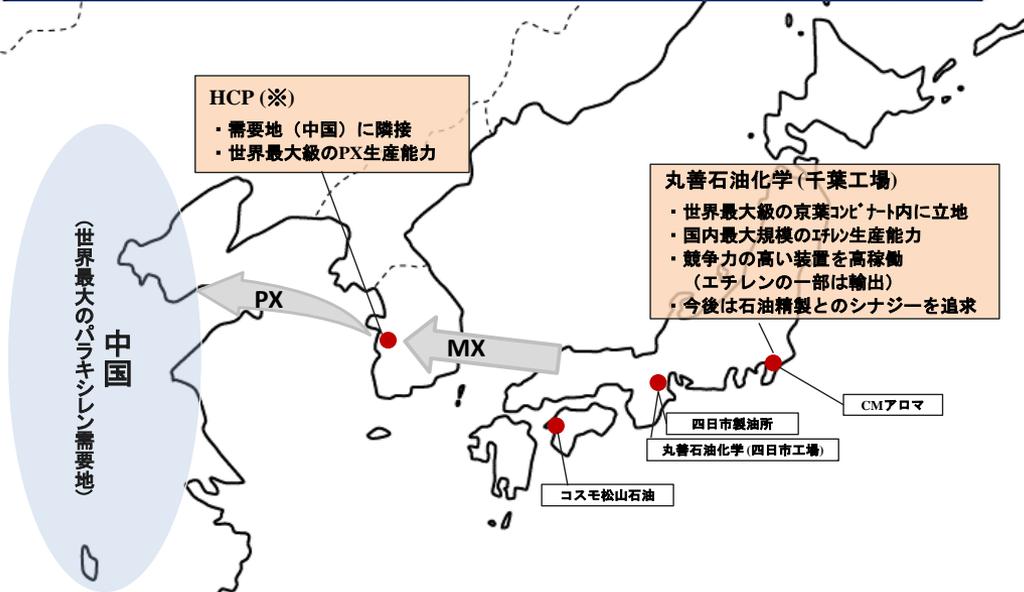
# 【石油化学事業】 需要増加が見込まれるエチレン、パラキシレン市場をターゲットに 競争力の高い装置を高稼働

## 石油化学製品 需要想定



出典：経済産業省「世界の石油化学製品の需要動向(2015-2021)」

## 当社グループの強み



(※) Hyundai Cosmo Petrochemical : コスモ石油とHyundai OilbankのJV

## 生産体制

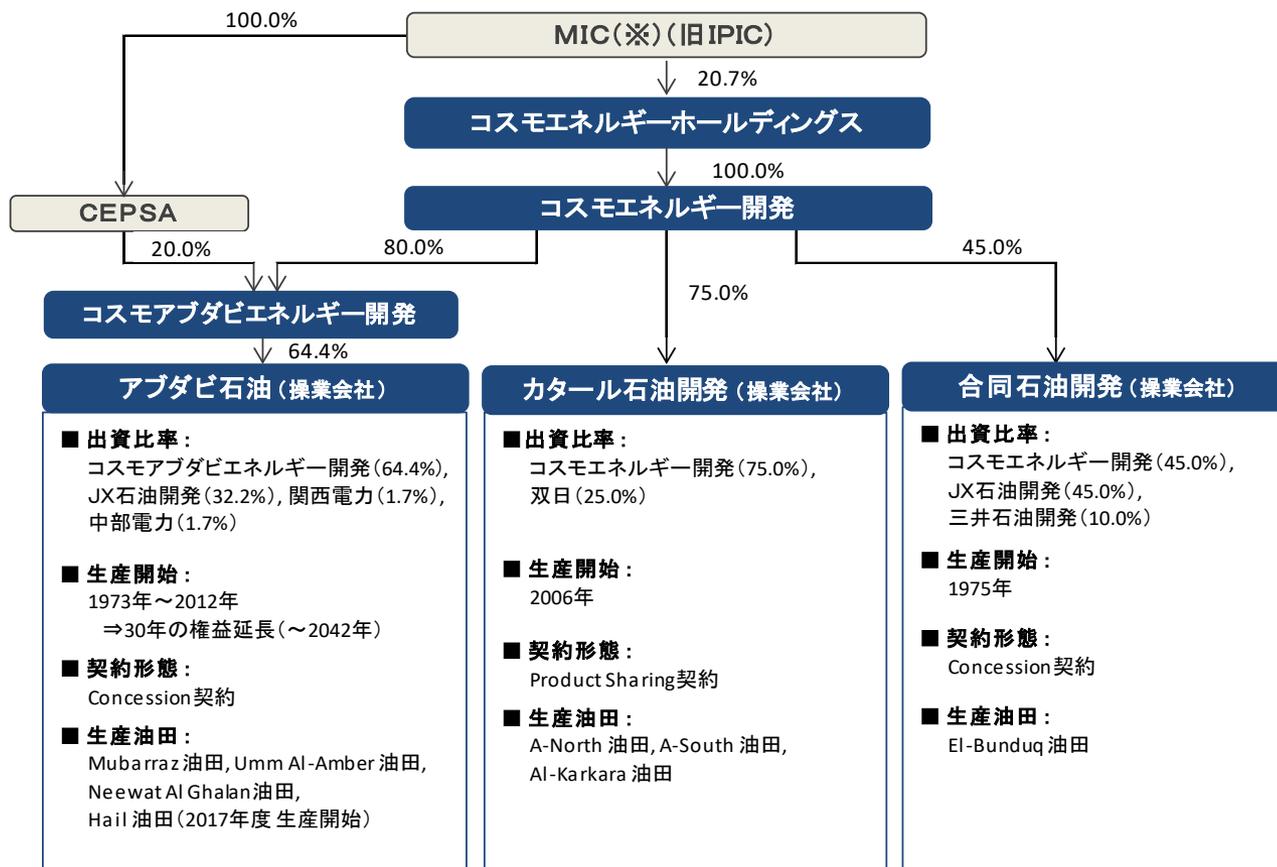
項目	生産会社	生産能力	
オレフィン系	エチレン	丸善石油化学	※ 129 万t/年
アロマ系	パラキシレン	Hyundai Cosmo PetroChemical	118 万t/年
	ベンゼン	丸善石油化学	60 万t/年
		Hyundai Cosmo PetroChemical	25 万t/年
		コスモ松山石油	9 万t/年
	計	94 万t/年	
ミックスキシレン	コスモ石油(四日市製油所)	30 万t/年	
	CMアロマ	27 万t/年	
	コスモ松山石油	5 万t/年	
	計	62 万t/年	
	アロマ系合計	274 万t/年	

※京葉エチレン(丸善石油化学が55%を出資する連結子会社)の生産能力を含む

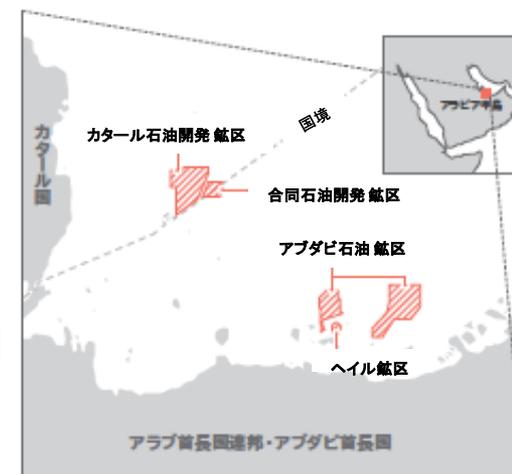
## 【石油開発事業】 概要 ～オペレーターシップ(自社操業)を活かした高い競争力～

- ✓ 50年近い安定生産を基盤としたアブダビとの信頼関係をベースに、低リスク・低コスト開発を実現
- ✓ アブダビ石油は2012年の権益延長(30年)と共に、既存3油田と同規模の新鉱区ヘイルを取得
- ✓ ヘイル油田が2017年度に生産開始

### ■ コスモエネルギーグループの石油開発部門



### ■ コスモエネルギーグループの鉱区



(※)アブダビ首長国100%出資のエネルギー関連投資会社

IPIC(International Petroleum Investment Company)とMDC(Mubadala Development Company)が統合し、持株会社としてMIC(Mubadala Investment Company)設立。

## 【石油開発事業】 当社グループの強み

- ✓ **リスク耐性** : 油価低下リスク、探鉱リスク、資金調達リスク
- ✓ **成長戦略（生産量拡大）** : ヘイル油田開発、セプサとの共同開発の検討
- ✓ **長期の安定生産体制** : 産油国との強固な信頼関係、良質な油田、原油回収技術

### ■ リスク耐性 ■

- 低油価での収益力 ⇒2016年度1Q(1-3月)はドバイ原油\$30/Bの環境下、黒字確保
- 既発見・未開発の油田(ヘイル含む)による低コストな開発の実現
- 操業会社の与信で日本の公的機関(JBIC)が融資を実行

### ■ 成長戦略 ■

- ヘイル油田はピーク生産時でアブダビ石油の既存3油田と同規模の生産量
- MIC(旧IPIC)出資先セプサとの戦略的包括提携、アブダビ国営石油会社と3社で新規油田開発を検討

### ■ 長期の安定生産体制 ■

- UAE建国前に権益を取得し、50年近い安全操業・安定生産
- UAE(アブダビ)、カタールから長期かつ安定的な原油購入
- 文化面(日本語教育他)・環境面(ゼロフレア他)などでも両国に貢献

### 中東地域(UAE/QATAR)の事業環境

- アラビア湾は埋蔵量が多く、探鉱データ蓄積も多い( = 原油発見コストが低い )
- 水深が浅い( = 探鉱・開発、操業コストが比較的低い)
- 政治的に安定しており、カントリーリスクが小さい